



JR枝川駅に遮蔽板がつけました

JR枝川駅では、盗撮の被害が発生していました。警察などからJR四国にお願いし、本年5月に盗撮被害に遭いにくいよう、駅フェンスに遮蔽板を取り付けてもらいました。

今後も、住民の皆さんが安心して暮らせるように犯罪の起きにくいまちづくりを推進していきますので、お気付きの点がございましたらご相談ください。

子どもを水の事故から守ろう



いよいよ、水に親しむシーズンとなり、海や川などで子どもたちの水遊びが盛んになってきます。

例年、この時期には、子どもたちの痛ましい水の事故が多くなることから、警察では7月と8月の2か月間を「夏期における水難防止期間」として、子どもを水の事故から守る活動を行います。

今年も子どもを痛ましい水の事故から守るため、次の点に注意してください。

◎水の怖さの再確認を!

本格的な水のシーズンを迎える前に、家庭や学校などで水の怖さについて話し合い、危険な場所での水泳や水遊びなど、してはいけないことを再確認させてください。

◎危険な場所の点検を!

流れの速い場所や急に深くなっている場所、転落しやすい場所など、子どもの水難を誘発する危険な場所がないか、身近な水辺の点検をお願いします。

◎子どもだけの水遊びには注意を!

海や川などで、子どもだけで水遊びをしている場合は危険ですので、声をかけて止めさせましょう。

◎ライフジャケットの着用を!

釣りやボート遊びなどで水に入るときは、ライフジャケットを着用し、ウォーターシューズなど濡れても良く、脱げない靴を履くようにしましょう。(ビーチサンダルは脱げて危険!)

◎幼児から目を離さない!

保護者が同伴していても油断せず、幼児から絶対に目を離さないようにしましょう。

危険な場所や危険な水遊びについてお気付きのことがあれば、お気軽に土佐警察署、いの警察庁舎、駐在所又はパトロール中の警察官に連絡してください。痛ましい水の事故から子どもを守るために、地域の皆さんのご協力をお願いします。

「災害に備えよう」～災害用伝言ダイヤル(171)をご存知ですか～

『災害用伝言ダイヤル(171)』とは?

日本国内で震度6弱以上の地震など、大規模災害が発生した場合に通信事業者が、音声で伝言内容を登録し、相手方へ連絡事項を伝えるために利用

するものです。

※携帯電話やスマートフォンなどの通信機器で利用することができます。

災害用伝言ダイヤル(171)の利用方法

伝言の登録方法	伝言の再生方法
171をダイヤル ↓ (ガイダンスが流れます。) 1をダイヤル ↓ (ガイダンスが流れます。) 被災地の方は自宅の電話番号を 被災地以外の方は被災地の方の 電話番号を (0000) 0000-0000 ↑ 市外局番から入れてください。	171をダイヤル ↓ (ガイダンスが流れます。) 2をダイヤル ↓ (ガイダンスが流れます。) 被災地の方は自宅の電話番号を 被災地以外の方は被災地の方の 電話番号を (0000) 0000-0000 ↑ 市外局番から入れてください。

災害時以外でも、毎月1日及び15日、防災週間(8月30日9:00～9月5日17:00)など、体験利用日が設定されています。

一度ご家族、親戚、友人と一緒に利用してみて、実際の災害に備えましょう。

疲れ・眠気を感じたら、迷わず休憩をとりましょう

夏の厳しい暑さが続くこの時期は、暑さや睡眠不足、行楽地などに向かう渋滞での疲労が重なり、過労運転や居眠り運転による重大事故の発生が予想されます。

運転中に疲れや眠気を感じたら、決して無理をせず、安全な場所に車を止めて休憩しましょう。

【安全運転のポイント】

- ◆体調に配慮し、無理のない運行計画を立て、ゆとりある運転を心掛けましょう。
- ◆時々窓を開けて空気を入れ換えをしましょう。
- ◆飲み物やガムなどを上手に使いましょう。

- ◆渋滞中は十分に車間距離を保ち、前車に注意しましょう。
- ◆疲労の度合いが高くなる深夜から早朝にかけての運転時は、速度を控え、慎重な運転を心掛けましょう。



同乗者も安全運転にご協力をお願いします

ドライバーの助手として、一緒に安全確認をしたり、運転者の姿勢態度、あくびやまばたきの多さなどを観察し、休憩をとるようにすすめましょう。